

第3回避難者健診が開催される！ @ 良元診療所

2014年8月3日宝塚医療生協の良元診療所で第3回目となる避難者健康診断を実施しました。兵庫民医連では、原発事故の放射能の被害により兵庫県に避難された被災者のニーズに応え、昨年からは甲状腺エコーを含む健康診断を県連内の事業所で年に2回のペースで行っています。心配される放射線による健康への影響は未だ5%しか解明されてない事からも最低10年は続けていきます。

当日は13家族31名の方（成人14名小児17名、避難元別では福島県6名、宮城県2名、神奈川県3名、埼玉県3名、千葉県7名、東京都10名）が受診されました。

今回は診療所で小規模にしたことから、医師体制は内科2診（良元診療所・脇野医師、東神戸病院・滝本医師）と小児科2診（尼崎医療生協病院・森医師、保険医協会・池内理事長）、職員・関係者は各法人から33名の参加でした。宝塚医療生協は看護師6名を含む11名で法人をあげて関わってくれたおかげで組合員3名加入というおまけもついていました。

甲状腺エコーのための超音波診断装置はメーカーにご協力いただき最新機2台とビューワソフトもお借りすることができたので、滝本医師が甲状腺エコーの画像チェックで待機し、心配をされ説明が必要な方3名に直接フィードバックを行いました。医学生（浅田君）も参加し、診察、甲状腺エコーの見学も行うことができました。河室師長指揮のもと、看護体制では、小さい子どもさんも怖がらずに採血ができ、スタンプラリーフロア責任者（被ばく対策委員・黒瀬東神戸診療所事務長）を置いた為、流れもスムーズに行えました。子どもさん達のために、今回も青年ジャンボリー（4名）が東神戸診療所からお借りした遊具を使いレクリエーション担当で活躍してくれました。最終ゴールでは「私の健康記録ファイル」とまるっと西日本さんから提供のお土産を渡して終了ですが、ここでも原発事故のため波乱万丈の3年間の出来事の話が尽きませんでした。

職員の感想では「これぞ、民医連の健診だ」「実際に聴かないとわからない、貴重な体験をさせてもらった」「今異常がなくても、今後はわからない、健診継続が非常に大事」「様々な症状の訴えがあり、不安に思っている」「やはり自己負担軽減の対策が必要」という感想もあり、宝塚市に健診助成を要請しましたが実現しなかったことから、保険医協会とも協力して運動していく事も意見交換されました。緊張した面持ちで来られた受診者の皆さんは、医療者に心配なことを話すことができ、安心して検査を受けられたためか、お帰りの際はとてもしっかりとした表情がみられ、感謝されました。（被ばく対策委員 松本理花）

